

P8310784.JPG 2019/03/15

慶応四年八月十九日より慶応四年八月二十三日まで

P8310784right

十九日亥 晴雲午下晴

北村未亡人来る、此程茶溪邸帰住の段を告る也、去る十五日の如く荷物運輸す今日茶溪へ帰邸に付保三助力に來り、午下第二時太郎次郎を携荷船に乗組第四時□邸、妻□児は陸行し北村並□□方へ告前に立寄、小品鶏卵一重持來同所にて須崎伯母も邂逅せし旨帰邸の上永持野口富沢等より夕餐其分配烹<sup>3</sup>の手数を□く

廿日子 雨漸に止午下晴雲

墨邸残荷を運輸のため雇船を遣す、山本長方へ此の帰住せし旨報告す、右行違同人来る

廿一日丑 陰漸晴

P8310784left

前<sup>2</sup>山隠居來り移居の□殖<sup>2</sup>□し、別当新吉近辺港<sup>2</sup>屋横丁へ引移る旨に付、御可□迄□遣す故

を以手当一円遣す、古土蔵の方売渡し約定三円二方と極め二方金手付金差出す

廿二日寅 風雨、午前止、夕前到晴

匠工鉄左<sup>2</sup>衛門を招き表座敷取毀の儀積り方命じ遣す、渡辺はじめという者水野

病氣の托言なりとて来る、同人は既に死去後の事故疑ひ深く辞して不面、礫川より俄に

荷物願度由にて宮行李届越、郭内騷擾の説□度に物<sup>2</sup>□によるとなり

廿三日卯(\*0) 雨午前止、猶陰

古倉扨代三円半不残皆納、猶倉庫暫く頼置度旨也、前の内村君塚常來り初て面し

酒飯等設く、荷物運輸の儀頼む、此來りし□辺某又来る、今日は近在出立の趣を以辞せしむ

\*0:八月二十三日は白虎隊が会津飯盛山で自刃

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。